

平成29年第8回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成29年7月25日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成29年7月25日	開会 1時30分 閉会 2時27分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 第1会議室		
出席委員	教 育 長 山本 修司 教育長職務 代理者 鮎川志津子	委 員 福元 弘和 委 員 岡村理栄子 委 員 浅野 智彦	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	学校教育部長 川合 修 生涯学習部長 西田 剛 庶務課長 加藤 真一 学務課長 河田 京子 指導室長 小林 正隆 統括指導主事 平田 勇治 指導主事 丸山 智史	生涯学習課長 内田 雄介 図書館長 菊池 幸子 公民館長 林 利俊 小金井第三小学校長 永井 秀二 緑小学校長 所 夏目 庶務係長 中島 憲彦	
調 製			
傍聴者人数	28名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議案第 1 6 号	平成 3 0 年度使用小学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択について
第 3	報 告 事 項	1 その他 2 今後の日程
第 4	代 処 第 6 号	職員の分限処分について
第 5	議案第 1 7 号	教員の人事異動について

山本教育長 皆さん、こんにちは。ただいまから平成29年第8回小金井市教育委員会定例会を開会する。

日程第1、会議録署名委員の指名。

本日の会議録署名委員は、鮎川委員と岡村委員にお願いする。よろしくお願ひする。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

山本教育長 次に、日程第2、議案第16号、平成30年度使用小学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択についてを議題とする。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条第6号の規定に基づき、平成30年度使用小学校「特別の教科 道徳」教科用図書を採択する必要があるため、本案を提出するものである。

それでは、選定調査委員長である小金井第三小学校の永井校長先生、副委員長である緑小学校の所校長先生、お二人から各教科書の特徴の報告をしていただきたいと思います。よろしくお願ひする。

なお、私、教育長と教育委員は、選定調査資料を事前に拝読させていただいて、各自で実際に教科書見本をじっくりと読み込んで研究をしてきている。本日の教科書各社ごとの説明については、報告書の内容全てではなく、特徴的なことにポイントを絞って報告していただきたいと思いますので、よろしくお願ひする。

所校長 まず初めに、東京書籍の教科用図書の特徴についてご報告する。

内容の選択についてであるが、主なものとして、これから1年間で学ぶことの見通しが内容項目別でわかりやすく示され、教材を選択しやすい。児童向けに書かれた「道徳の学習を進めるために」があることで、教師にとっても道徳学習の進め方がわかりやすい。福祉、国際理解、オリンピックに関する内容が豊富でよい。目次に「問題を見つけて考える」と記載された葛藤場面がある教材が多く、児童の思考が深まる。いじめをテーマにした内容は、児童の世界にあるであろう身近な内容でわかりやすい、などが挙げられる。

構成・分量についてであるが、多くの資料が4ページの構成であり、分量としては適切である。あらかじめ決まって書き込むところ

があるわけではないので、教師が実態に応じて書くことを決めることができる。時間数と同じ35週分の読み物資料が掲載されている。「つながる 広がる」のところで他教科との関連について書かれており、道徳の時間以外にもつながりを持たせられるようにしているのがよい、などが挙げられる。

東京書籍の教科用図書については以上である。

続いて、学校図書の教科用図書の特徴についてご報告する。

内容の選択についてであるが、主なものとして、『読みもの』と『活動』、2冊構成になっており、それぞれの教科書があって使いやすい。実話をもとにした資料では写真が使われており、児童も引き込まれる。『読みもの』コラムで、「言葉・情報モラル」について考えられるページがある。別冊『活動』で、授業の流れとして、「はなしあおう」「かんがえよう」「みつめよう」などが書かれているので指導しやすい。別冊『活動』の巻末に保護者向けのページがあり、保護者との連携に活用できる、などの特徴がある。

構成・分量についてであるが、オリンピック・パラリンピック関連、情報モラル、国際理解など、さまざまな分野の教材がバランスよく配列されている。2冊あるが、読み物とワークシート用として分けて使うには十分な量である。別冊『活動』に手だてが書いてある。手だてが『読みもの』冊子には書いていないため、読み物にしっかり入り込み、向き合うことができる、などがあった。

学校図書の教科用図書については以上である。

教育出版の教科用図書の特徴についてご報告する。

内容の選択についてであるが、主なものとして、生活に密着した題材や時事ネタ、ノンフィクションの資料が多い。新しい教材を多く取り入れている。「学びの手引き」には多くの質問があり、教師が選択できるという面と、一方で児童の実態に即さない面もある。補充教材が巻末にあり、児童の実態に合わせて考えさせたい教材が選べるのがよい。「スキル」と書かれた教材の中の「やってみよう」は、役割演技を取り入れたものになっていて、体験を通して学び、考えられるようになっている。最初と最後に道徳について自分なりの思いを書くスペースがあるのがよい、などがあった。

構成・分量についてであるが、35時間分の教材はないので、分量がやや少な目で、教師が別の資料を選ぶ余地がある。写真や写実的な挿絵が多く、低学年にはかたい印象がある。主題名の後のめあ

てがわかりやすい面と誘導的に感じられる面もある、などがあった。

教育出版の教科用図書については以上である。

光村図書の教科用図書の特徴についてご報告する。

内容の選択についてであるが、主なものとして、心を育む温かな教材が多い。身近な最近の出来事から歴史的な人物まで出ているのがよい。冒頭の「道德の時間は」では、道德の学習への取り組み方が場面絵で示してあるので、イメージをつかみやすい。「考えよう、つなげよう」の項目があり、学習の流れがわかりやすい。「学びの記録」のページがあり、各内容項目の振り返りが記録できる。巻末に主題、現代的な課題等との関わり、他教科・領域との関わりなどが一覧になっているのがわかりやすい、等があった。

構成・分量についてであるが、3カ月ごとに色分けされた学習のまとまりがあり、見通しが立てやすい。おおむね適切な分量と内容だが、漫画表記や数作の長文も含まれる。本のサイズが小さく、他の教科書と同じような感じでよいが、文字が小さく、1ページにある文字数が多い、などがあった。

光村図書の教科用図書については以上である。

永井校長

それでは、私から後半の4社の特別の教科 道德の教科用図書の第2回調査委員会でのことをご報告する。資料はお手元のとおりである。

最初に、日本文教出版である。

まず、学習の手引きにページを多く使っていて、学び方や学ぶ姿勢がわかりやすく書かれていて、児童が捉えやすい。また、道德ノートが使いやすい。道德ノートに友達の考えの枠があるのがいい、ということが内容の選択で特に指摘された。

また、構成・分量については、子どもの体験したような内容が豊富で、これまで使われた定番の教材も多く扱っていて、指導しやすい。また、別冊で道德ノートがついており、全時間に対して、自分の考え、友達の考え、学習の振り返りを行うことができるようになっている、ということが挙げられた。ノートについては、子どもの負担になるのではないかという考えも出されたが、教科化に伴う評価の段階で活用が図りやすいであるとか、道德のことを専門的に研究していない教員や経験の浅い教員の助けとなりやすいという意見も見られた。

次に、光文書院である。

写真や吹き出しがとても多く使われていて、気持ちを考えやすい。また、発問がページの下に載っていてわかりやすい。学びの足跡が振り返りになる、ということが主な内容の選択で大事なことで出された。

また、構成・分量については、家庭や学校、地域それぞれの場面での題材がバランスよく組まれているとか、吹き出しなどに漫画形式の教材が多いということが特徴として挙げられた。吹き出しについては1年生には少し使いづらいのではないとか、発問が教科書のすぐ欄外に出ていることが、先に子どもに知られてしまって、授業をする上でやりにくさもあるのではないかという意見も反対に出された。

次に、学研である。

長年受け継がれてきた資料と新しい資料がバランスよく入っている。また、写真や挿絵が大きく記載されていてよい。日本人のよさ、日本の文化のよさを再認識できる資料が入っている、等が内容の選択の特徴として挙げられた。

また、構成・分量としては、シンプルなつくりでわかりやすい構成である。また、コラムが充実しているとか、学びの足跡で授業の記録を記録でき、これまで何を学んだか残せるのがよい、という意見が出された。1年生にとって、字の大きさが少し小さいのではないとか、挿絵のタッチが資料によってちょっとばらばらなところが気になるという意見もあった。

次に、廣済堂あかつきさんの教科書である。

これは道徳の読み物資料としてよいと言われている資料が多く載っている。また、内容項目が最初のページに載っていないので扱い方の工夫ができる。ワークシートを使わなくても、ノートを使って進めることができる、等が内容の選択として挙げられた。

また、構成・分量については、ノートを書く分量が豊富でボリュームがある。学習の記録を自分でまとめるページがあり、年間を通しての自分の成長を振り返ることができる構成になっている、という意見が出された。書き込みのスペースについては、最初にも挙げられたように、これらのことが子どもの負担になるのではないとか、逆に扱いづらい面があるのではないかという面も挙げられた。

以上、後半の4教科書についての報告を終わる。

山本教育長

ありがとうございます。各学校のたくさんのご意見を長期間にわたってまとめていただき、ほんとうにありがとうございます。

何か特段の質問とかがあればお受けするが、よろしいか。

それでは、次に、教育委員による協議に入る。大きく分けて2つの視点からご意見を伺いたいと思う。1つは取り扱っている教材の内容について、2つ目は子どもたちの学習のしやすさがどう工夫されているかということについてである。

最初に第1の視点、内容についてご意見を伺いたいと思う。鮎川委員から願います。

鮎川教育長
職務代理者

小金井市の学校ではこれまでも道徳の授業に大変力を入れてくださっており、すばらしい授業が展開されてきたと思う。各学校の道徳授業地区公開講座を拝見し、道徳の授業のレベルの高さを実感している。先生方の今まで培ったものを崩さないように、さらによいものと思って調査・研究をしてまいった。私の意見を述べさせていただきます。

どの会社の教科書も大変充実した教材が配置されており、読み物に関しては心に響く物語がたくさん掲載され、適当な長さに工夫されていると思う。その中でも特に、光村図書は、心を育む温かな教材が多いと、先ほど所校長先生もおっしゃっていたとおも私を感じた。市民の方のご意見にもあったが、6年生の「まどさんからの手紙」のように、読むだけで温かな気持ちになり、子どもたちの生きる力に結びついていく教材が多いと思う。

東京書籍は、選定調査資料に記載されているように、葛藤の場面がある教材が多く、児童の思考が深まる、道徳にふさわしい教材が多い。5年生の「見えた答案」、6年生の「修学旅行の夜」など、子どもたちの心の揺れが、丁寧に記述されており、子どもたちの考えが深まると思った。また、5年生の宮沢賢治さんの「そういうものに私はなりたい」は、大変有名な文章であるが、東京書籍は学習に適した取り上げ方、長さであったと思う。

3点目になる。学習指導要領における指導上の配慮事項として、情報モラルに加えて現代的な課題の取り扱いが挙げられている。全社とも情報モラル、いじめ問題、現実的な課題については直接的、間接的に取り扱っており、どちらの教科書もすばらしいと思う。東

京都教育委員会の調査研究資料の10ページに、情報モラル、現代的な課題を取り扱っている教材数が記載されている。日本文教出版が85、光文書院が65と飛び抜けて多い。内容について、同じ資料の47ページ、48ページを見たところ、光文書院に関してはいじめ防止の教材が54点と格別に多かった。54点、数字が挙がっているのではなく、私が手で数えた。数の多さだけが重要ではないとは思いますが、いじめ問題は大変デリケートな問題であるので、直接的に扱う教材とともに、光文書院の6年生の「負けないで」のように、間接的に学べる教材は授業の広がりができ、広い観点からの学習ができると感じた。

私は、以上挙げた3つの会社の教科書がよいと思う。

山本教育長

ありがとう。

それでは、福元委員、お願いする。

福元委員

私は、市民の声の中にある一文が気になって、その辺を考えながら教科書を見ていた。多分学校を経験された方ではないかと思うが、その方は教科書によって学級指導の授業が同じになることや教材がスキルのになりがちな傾向を心配しておられた。私も気になる部分である。今回、道徳も主体的、対話的な学習の展開が強く求められているから、扱い方によってはどうしてもそうなりがちだと思うが、道徳の授業ということを考えると、やはりこの点は慎重に考えなければならないのかなと思っている。そういう点から見たときに、東京書籍、光文、学研の3つが、先生たちがそういう心配をしないで指導できる教材内容になっているかなと感じた。また、いじめの問題なども、直接的教材と間接的教材をうまく組み合わせて追っていること、更に、これも市民のアンケートにあったが、子どもの身近にある問題で扱いやすい内容が取り入れてあるというのが、東書と光文ではないかなと思っている。したがって、私は東書、光文を第1に。そして、次に学研を推薦する。

山本教育長

ありがとう。

それでは、岡村委員、お願いする。

岡村委員

アンケートにもあったように、道徳の教科書は先生方が使いやすい

いものをお選びいただくのが一番いいと思います。やはり福元先生と同じで、私は、答えがだんだんわかってしまうような感じが、理想の答え又は大人に要求される正しい答えが子どもたちにわかるような感じがしてしまいます。それなので、子どもたちが感動するお話がいいかな、身近なものでと思った。その中で私は、東京書籍の「ありがとう上手に」というので、ありがとうとみんなに言って、周りの人といろいろ話し合ったり、お互いに感謝する気持ちとか、こういうふうな身近でいて、そしてお互いに感謝し合って、なぜそんなふうに感謝し合うんだらうとか、おうちで話ししてもらったりとかできる。こういう子どもが感動するお話があったのが東京書籍だと思った。あと、同じ富士山の清掃とか、数冊の教科書に書いてあったが、学研の野口さんが書かれた「チョモランマの清掃登山隊」というのは、自分はこういうことをしてしまっ、反省してこうだ、そしてそれを見逃さないで、努力して直そうとして、それを富士山まで伝えたという、清掃の過程ではなくて、自分のしたこととか、反省とか、いろいろするというお話がいいと思った。自分は感動したお話が多かったのは東京書籍と学研で、これを読んで子どもが感動して、深く考えていけるように、答えが1つにならないようにするには東京書籍と学研が私はいいと思った。いじめ問題については、皆さん差はあまり感じずに、早目早目の話し合いとか、そういうことだ、ほかの教科書もみんな努力なさっているなと思った。私は大体、東京書籍と学研が同じぐらいと考えている。

山本教育長

ありがとう。

それでは、浅野委員、願います。

浅野委員

先日、教育委員を拝命した浅野と申す。よろしく願います。委員長、副委員長、ご報告、どうもありがとう。

まず、結論から申し上げますと、全体として私は、第1候補として光村図書、第2候補として学研教育みらい、第3候補として東京書籍を推したいと思う。第1の観点から、所見を2点に絞って述べさせていただきます。

1つ目は、人権にかかわる学習内容についてである。特別の教科道徳は、この指導要領の解説の説明を見てみると、こんなことが書いてある。「グローバル化が進展する中でさまざまな文化や価値観

を背景とする人々と相互に尊重し合いながら生きること、多様な価値観の存在を認識しつつ、自ら感じ、考え、他者と対話し、協働しながら生きていくことを目指す」と書いてある。このような相互尊重、共生あるいは協働の基盤にあるのは、基本的な人権の尊重という理念であろうと考える。加えて、東京都の教育委員会はその基本方針の1番目に人権尊重の精神を掲げている。このことを重く見ると、世界人権宣言を扱っている光村図書、それから子どもの権利条約を扱っている学研は、高い評価に値すると私は考えた。東京書籍のほうは、同じことをいじめにかかわる教材の充実という形で、やや限定的にはあるが、目指しているものと考えている。

2つ目は、情報倫理にかかわる教材内容についてである。情報通信技術は変化が激しい分野であるので、子どもたちの実際の生活経験に即した教材をつくることはいつも難しい課題だと思う。この点、学研の教材は、他社と比較した場合、新しい動向に極めてよく追随しているというふうに判断した。

以上である。

山本教育長

ありがとう。

それでは、最後に、私のほうの意見を申し上げたいと思う。

私は元教員である、しかも国語であるので、どの教材で教えたら、子どもたちが非常に感動したり、あるいは、主人公たちが葛藤する姿を見て、同じような気持ちになって深く考えて、自分の意見を持って友達と活発に意見を交わし合うような、そういう教材はどれだろうかという視点から読ませていただいた。例えば、私も校長講話をやっていたが、校長講話をそのまま文章にしたような、そういうちょっと退屈するかなというような文章も多く目についた。いい授業ができる教材はどれかと。そのために、1冊の教科書に35の教材があるが、それを8社、6学年、8掛ける6掛ける35で、合計で全部で約1,700あるが、1,700の教材を全部読み込んで、5段階評価をしてみた。これはあくまでも元国語教師としての私の個人的な視点からである。それで客観的に点数をつけてみたが、その結果を申し上げますと、断トツで一番点数が高かったのが光文書院である。これは非常に斬新な教材が多かったと思う。それから、第2位が学研である。そして、第3位に東京書籍と廣済堂あかつきという順番になった。

私は、結論を簡潔に述べさせていただいたが、以上である。

それでは、お互いの意見を聞く中で非常に意見が分かれているところであるので、いろいろと感じているところがあると思うが、そういうことも含めながら、第2の視点、子どもたちが学習しやすいような工夫、それはどこの教科書だろうかという視点からお話を伺いたいと思う。

鮎川委員、お願いします。

鮎川教育長
職務代理者

子どもたちの学習のしやすさは、先生方の授業のしやすさにも結びつくと思う。次の視点として、形式に絞って考えた。大きく分けて、狙いと発問が各単元に記載されているか、別冊の有無についてである。

狙いに関しては、学研以外の全社の教科書に書かれている。発問は学校図書の『読みもの』以外の全社に書かれている。通常の教科書では、各単元において狙いもしくは目当てなど、授業の最初に子どもたちが理解することは大切と思っているが、道徳は、ほかの教科と違って、全ての授業で正解を導くことが目標ではないと思う。新しい学習指導要領では多角的・多面的に考えることが明記されているので、あえて狙いや発問がない教科書もよいと考えた。

別冊に関しては、先ほど、永井校長先生のご報告の中でも長所と短所それぞれご説明いただき、なるほどと思った。確かに別冊は長所として学習の記録としても残るし、先生方がワークシートをつくるご負担も減ると思う。私は別冊はないほうがよいと考える。前に道徳授業地区公開講座で「手品師」を教材とした授業を拝見した。全社で「手品師」は教材として扱われている。大変よい教材だと思う。拝見した授業がすばらしいと思ったのは、手品師の誠実さということとさらりと授業が進んでいたときに、先生が工夫してくださったことである。手品師が自分の夢を諦めずに進んだほうがよいという子どもの意見、電話をくれた友達への気持ち、そういう異なる視点を上手に引き出された先生がいらっしやっした。子どもたちも迷いながら、違う視点、正解がわからないところを考えていくためには、別冊がないほうがよいと考える。

以上である。

山本教育長

ありがとう。

それでは、福元委員、お願いします。

福元委員 私も別冊はないほうがいいのかなと思っている。別冊だけではなくて、発問や作業等が多過ぎる教科書は、担任の先生が自分で授業を工夫する余地を減らしてしまうのではないかと思う。小金井の先生方は研究を十分に熱心にやっておられて、研究授業などもどの学校も十分にやっている状況にある。やはり工夫しながらやっていける余地を残したい。子どもたちにもその時間の中で先生と一緒に読みながらじっくり考えさせたい。またその状況を見ながら先生が次の展開を工夫できるような、そんな授業を期待したいと思う。そういう点から考えると、別冊やノート等がついているのはまず外したいなと思う。そう考えてみたときに、東京書籍が一番授業の工夫の余地があると思った。次に光文、そして学研と、同じ理由で推薦したいと思った。

以上である。

山本教育長 ありがとうございます。

それでは、岡村委員、お願いします。

岡村委員 私も福元委員と鮎川委員とほとんど同じ意見で、やはり自由に子どもたちが考えたりとか、先生方と話し合っている感動を得ていただきたいと思うし、実際に小金井ではそういうことが行われているということで、発問もあまり多くなくても大丈夫だし、別冊もないほうがいいかなと思った。今も自由にいろいろなさっているように、いろいろ皆さん工夫されているし、わざわざ別冊などは要らないと思った。それで、別冊のないということと、あまりしつこくしない東京書籍と私は学研が、東京書籍がいいと思った。

あともう一つ、光村はちょっと小さくて読みづらいところもあるかなと。それは全然別な話であるが、全体的に考えて、光村は内容はよくても、ちょっと使いづらいかなという気がした。

山本教育長 ありがとうございます。

それでは、浅野委員、お願いします。

浅野委員 第2の観点についても、2点に絞って所見を述べさせていただく。

第1が、特定価値観への誘導のリスクについてである。こちらは、市民アンケートの結果を拝見しても、多くの市民の方が懸念されていることであると思う。また、指導要領の解説を見ても、こんなことが書いてある。「特定の価値観を押しついたり、主体性を持たず、言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にある」と書かれている。したがって、目標提示の仕方、発問のあり方、ワークブックの様式などは、この観点から細心の注意を持って作成されるべきものであると考えている。市民アンケートにおいても、指導要領解説においても、答えは1つではない道徳的な課題というふうに表現されているように、正解を求めるような態度を誘発する構成はできるだけ抑制するほうがいいというふうに思う。その点において、光村、学研、東京書籍、先ほどと同じであるが、光村が第1候補、学研が第2候補、東京書籍が第3候補、これらの教科書は、その点、非常によく考えられており、工夫されているなど判断した。

2点目が、児童の負担についてである。ワークブック形式には、先ほど述べた懸念とは別に、市民アンケートにおいても指摘されていたように、単純に書くことに伴う負担があると思う。特に低学年においてはこれだけの量を書かせるということは、時に非常に難しさを伴うものではないのかなと懸念する。

以上である。

山本教育長

ありがとう。

それでは、最後に私の意見である。

私も、皆さんと同じように、別冊はないほうがいいというのが結論である。やはり一つの方に子どもたちの思考を導き過ぎるのではないかなという印象を持った。さらに、教科書と別冊ノートが剝がれやすくなっている教科書もあって、おそらく、子どもたちは家に持ち帰って片一方忘れてしまったというような状況がたくさん出てくるだろうと。そういう使いにくさも十分に想像できるので、これはないほうがいいと思った。

2つ目は、単元の終わりに書いてある学習の手引きのよしあしについて考えてみたが、このとき誰々ちゃんはどう思ったかという発問が非常に多いが、私は国語の授業を長い間やっていた経験からすると、これは一番つまらない。ほんの一部の語彙の豊富な子どもた

ちが数人手を挙げて答えて、ほかの子が黙っているという退屈な授業の典型になりがちな発問であるが、なぜか道德の教科書にそういう発問が非常に多かった。それに対して意見が分かれそうな、なぜなのだろうと、子どもたちの活発な討論を促すような、そういう手引きの設問が多かった教科書はどこかというふうに判断してみたところ、私は光文と学研と光村の3社がいいと思った。東京書籍が一番簡潔だったので、確かに先生たちが独自の授業展開の工夫ができるなと思ったが、若い先生が非常に増えているので、もうちょっと何か導きがあってもいいのかなと思ったので、私は光文と学研と光村の設問がいいと思った。ただし、光村図書は判型が一番小さい。最初は扱いやすくいいのではないかなと思ったが、ほかの教科書を見ると、写真や資料が非常に大きくて見やすく、刺激的でおもしろい。そして、活字も大きい。その分、光村がちょっと見劣りしたなと思ったので、結論としては光文と学研ということになる。

さて、それでは、2つの視点から皆さんにご意見を伺った。非常に分かれている傾向もあるし、一致しているところもあるが、最後に、お互いの意見を聞いた、市民アンケートも読んだ、それから校長先生方の報告書も十分に読み込んできた、東京都教育委員会の資料も読み込んで、我々もこの回以前に何度か情報交換と意見交換をさせていただいた、その結論として自分はこの教科書を小金井の子どもたちにぜひ扱ってほしいという、そういう結論を述べていただきたいと思う。ただし、1点に絞り切れない場合は、これとこれというような言い方でも結構である。そこで、多数を占めた教科書会社がいいのではないかという、そういう方向で話し合っていきたいと思う。

それでは、鮎川委員、お願いします。

鮎川教育長
職務代理者

まず、結論から申し上げる。複数挙げてよろしいか。

山本教育長

結構である。

鮎川教育長
職務代理者

私は、1番目の視点で挙げた3社と同じ結論となる。東京書籍、光村図書、光文書院の3社がよい。道德の授業に関してさまざまな観点が求められている。オリンピック・パラリンピックも近づいて

いるし、私自身も海外に住んだ経験からグローバル社会への対応が必要ということも認識している。学ぶべきこと、そして先生方に教えていただきたいこと、たくさんあるが、一番大切なものは命と考えている。具体的に命の大切さを扱っている教材だけではなく、自分自身を大切にしたいと思う読み物、学習指導要領にもある、自己の生き方についての考えを深めるという、自尊感情、自己肯定感に結びついていくような教材が多いものが、先ほど申し上げた3社となる。

以上である。

山本教育長

ありがとう。

それでは、福元委員、お願いします。

福元委員

教科書選定調査委員会の資料にある内容や市民のアンケートの声等も参考に考えると、先ほどの視点1、視点2で話したように東書、光文、学研を推薦したいと思う。

山本教育長

順位はいかがか。

福元委員

順位は特に付けなくてよい。

山本教育長

ありがとう。

それでは、岡村委員、お願いします。

岡村委員

私も東京書籍と学研を推薦したいと思う。私は、東京書籍は各教材の最後のまとめが自分自身に関係することが多いということと、学研は特定の価値観を押しつけずに自分の問題を解決していこうという2つが、小金井だったら先生方はできるのではないかなと思って、この2つが両方ともいいと思っている。

山本教育長

ありがとう。

それでは、浅野委員、お願いします。

浅野委員

今、教育長をはじめ、各委員の意見を伺って、最初に申し上げた順位を若干変更させていただこうと思う。第1候補として光村、第

2候補として学研教育みらいと申し上げたが、これを同順1位にさせていただいて、第1候補は同順で光村図書、学研教育みらい、第3ということになるんだと思うが、第3候補として東京書籍を推したいと思う。

それに加えて、若干所見を述べさせていただきたいと思う。市民アンケートを拝見して、特別の教科 道徳についての不安として多くの方が評価を挙げておられた。道徳教育に評価はなじまないのではないかという懸念は、我々も重く受けとめるべきだろうと思う。実は道徳の指導要領解説においても道徳における評価についてはこのように書いてある。「教師と児童の温かな人格的な触れ合いに基づいて共感的に理解されるべきものとされ、数値などによる評価は行わない。他の児童との比較による相対評価ではない」ことが明記されている。どの教科書が採択されるにせよ、このようなことを実質化していくことがおそらく重要であろうと思う。そのためには、改正される指導要録における評価記述の形式、あるいは通知表の記述欄の工夫などがこれから求められていくのだろうと考えている。

以上である。

山本教育長

ありがとう。

以上で協議を終わりにしたいが、特にほかの方の意見に対して、ここはどうだというようなことがあったらお受けするが、いかがか。特にないか。

それでは、私のほうで、今、皆さんのご意見を伺いながら、1番に推している教科書、何票入ったかということは今、メモしていたが、間違いがあったら言っていただきたい。

失礼した。私、自分の意見を言っていない。すまない。私は、先ほど申し上げた、光文が1位で、学研が2位で、3位が東京書籍である。

それで集計すると、東京書籍が3名、光村図서가2名、光文書院が3名、学研が3名ということになる。これ、間違いはないか。名前も言うか。大丈夫か。

それでは、今から無記名の投票用紙をお配りするので、東京書籍、光文書院、学研教育みらいの3つの中で1つだけ丸をつけて提出していただきたい。その中で多数を占めたものを教育委員会が選ぶものの候補としたいと思う。今度は1つだけに丸をつけていただく。

この方法でよろしいか。

(委員一同異議なしの声)

山本教育長

では、お預かりする。

それでは、発表したいと思う。発表した後、投票用紙を回すので、ご確認いただきたい。

東京書籍が3票、学研教育みらいが1票、光文書院が1票である。私どもの結論としては、東京書籍株式会社に決定したいと思うが、いかがか。

(委員一同異議なしの声)

山本教育長

一応投票用紙をごらんいただきたい。回して確認をした後……。

それでは、多数の教科書会社にするということについてはご異議がないので、特別の教科書 道徳の教科書は、東京書籍株式会社と決定する。よろしいか。

(委員一同異議なしの声)

山本教育長

以上で、平成30年度使用小学校「特別の教科書 道徳」教科用図書の採択についてを終了する。お疲れさまであった。

次に、日程第3、報告事項を議題とする。学校教育部から報告事項があればお願いします。

川合学校
教育部長

特にない。

山本教育長

生涯学習部から報告事項があれば、お願いします。

西田生涯
学習部長

特にない。

山本教育長

報告事項2、今後の日程について報告願う。

中島庶務係長

教育委員会の今後の日程について報告する。

東京都市町村教育委員会連合会第2回理事会及び第1回理事研修会が、8月21日、月曜日、午後2時から東京自治会館大会議室で開催される。福元委員のご出席をお願いする。

続いて、平成29年第9回教育委員会定例会が、8月24日、木曜日、午後1時30分から801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いする。

続いて、平成29年第10回教育委員会定例会が、10月10日、火曜日、午後1時30分から801会議室で開催される。全委員のご出席をお願いする。

続いて、東京都市町村教育委員会連合会管外研修会が10月13日、金曜日に開催される。詳細がわかったら別途ご案内させていただくので、全委員のご出席をお願いする。

続いて、東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会が10月17日、火曜日、午後3時から小金井市商工会館2階会議室で開催される。教育委員会委員である東京学芸大学教授浅野智彦先生の講演会を行う。全委員のご出席をお願いする。

今後の日程は以上となる。

山本教育長

以上で報告事項を終了する。

次に、日程第4、日程第5を議題とするところであるが、人事に関する事件である。私は、本案は小金井市教育委員会会議規則第10条第1項に規定する事件に該当するため、非公開の会議が相当と判断するが、委員の皆様、異議はあるか。

(委員一同異議なしの声)

山本教育長

全員異議なしと認め、秘密会を開会する。

準備のため、休憩する。

傍聴人の方におかれては、席を外していただくことになるので、よろしく願います。

休憩 午後2時22分

再開 午後2時27分

山本教育長 再開する。

 以上で本日の日程は全て終了した。これをもって平成29年第8回教育委員会定例会を閉会する。

閉会 午後2時27分